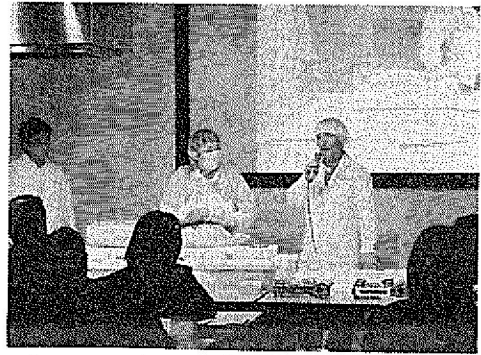


○ 東京都主催の食育大運動会に参加、枝肉解体作業を披露—TOKYO X

TOKYO X-Association (会長：植村光一郎・ミートコンパニオン営業本部長)は17日、東京・世田谷区の東京農業大学で開かれた「第1回東京都食育フェア 食育大運動会」(主催：東京都)に参加し、参加者らを前にTOKYO Xの枝肉解体の様態を披露。しょうが焼きやシューマイにして振る舞い、お肉の生産から流通・販売にいたる過程などを説明した。

当日はモノ珍しさもあり、会場となったキャンパス内のキッチンシアターには80人が詰めかけ、立ち見も出るほどの人気となった。組合では、豚枝半丸(73kg、11月15日と畜)1本を用意。同社プレミアムポーク課の山口和雄さんが中心となり、カタ、バラ、ロース、モモなどパーツごとに分割、断面を見せながら、植村会長がそれぞれの部位の特徴やおいしい食べ方など分かりやすく説明していた=写真。参加者からは脱骨やトリミング作業など初めて見るものばかりで、「脱骨は大変力の要る作業だ」「ヒレや豚トロはわずかな量しか取れないんだ」と会場のあちらこちらからため息が漏れたほか、「肉と脂、骨の比率はどの位なのか」といった質問も上がった。豚肉はその場で、しょうが焼きやハーブ焼き、シューマイにして振る舞われ、ほとんどが食べ尽くされてしまい、逆に植村会長らミートコンパニオンのスタッフを驚かせた。



食育フェアは、都民と食育活動団体、食品事業者、大学などが連携して都産の農畜水産物などの試食即売を通じて東京の食育活動の充実を図るもの。17、18日の両日で8,000人が訪れた。「食育という形を通じて、Xの素晴らしさを伝えたかった」と植村会長。このほか会場には、同生産組合(榎戸武司会長)がXの生体を展示した。

○ 今年も長蛇の列ができる人気、焼肉5,000食分を試食—さいたま市場



さいたま食肉市場は、17・18日の両日、さいたま市市民の森で開催されたさいたま市農業祭に参加し、牛肉と豚肉の焼き肉の無料試食を行った。両日も、試食開催前から長蛇の列ができ、短時間で予定量を消化する人気となった=写真。

同事業は、さいたま食肉市場・日本食肉市場卸売協会主催、日本食肉協議会の後援による平成19年度の国産食肉等需要拡大推進事業として実施されたもので、埼玉県産牛肉の深谷牛(黒毛和種)と夢味牛(交雑種)、国産豚肉の焼き肉5,000食分を無料試食した。例年、焼肉の試食は大人気となり、今年も子全10時の開始前から長蛇の列ができる人気となり、国産食肉の絶好のPRの場となった。また、日本食肉消費総合センターが制作した「高齢者の食生活と健康」などの小冊子を配布した。